

戸田家は代々、学問・文化を尊重しました。中でも大垣藩八代藩主戸田氏庸公は、学問・文化尊重の藩風を一層推進し、学問所を創設（後の致道館、敬教堂）し、博士の街大垣の礎を作りました。

また、自ら狩野派の絵師につき筆をとり優れた作品を多く残しました。

この土壌に多くの優秀な政治家・学者・文化人が育ちました。

今回の所蔵品展は、本館所蔵の大垣藩ゆかりの書画を展示し、大垣の学問・文化の源に触れていただくとするものです。



戸田氏庸公(大垣藩八代藩主)

◆戸田 氏英 《生没1729～1768》[在封1735～1768]
作品名:『紅梅図』

大垣藩六代藩主。7歳で藩主となる。財政立て直しのための家臣団の人員削減「永享の暇」を指揮したり、百姓一揆「盛樹騒動」に対したり、世継ぎ問題(山本周五郎「花筵」に描かれている)に悩んだり、と苦勞している。しかし、幕府からの信任は篤く、奏者番などを務めた。また幕府直轄領7万石弱の治政を預けられた。養子氏教は幕府の老中となっている。

◆戸田 氏庸 《生没1783～1841》[在封1806～1841]
作品名:『七福人(神)』・『富士の図』・『聖人の図』
『花鳥図』・『布袋唐子遊図』・『昇降鯉図』
『養老の滝 孝子の図』・『養老の滝』

大垣藩八代藩主。23歳で藩主になったが、この頃、大垣藩は極度の財政難に陥っており、財政立て直しに尽力した。しかし、なかなか効果が上がらなかった。このような中で、人材の育成が大切であることを痛感し、学問・文化を大いに奨励し、藩校設立に踏み切った。

これが、大垣を学問の町にする大きな契機となった。また、個人としても画才に優れ、多くの作品を残した。

◆戸田 氏彬 《生没1831～1865》[在封1856～1865]
作品名:『富嶽紅梅図』・『富士に松の図』

大垣藩十代藩主。父氏正と共に幕末の激動期に青年藩主として大垣藩を指揮した。

幕命を受け、安政の大獄、黒船の再来・日米修好和親条約、和宮の降嫁と公武合体、水戸天狗党事件、天誅組事件、長州征討などにかかわり、朝廷からは京都御所の警固などを下命され、忠勤に励んだ。そのため、朝幕双方から功を賞されている。しかし、大坂警備の軍中で病氣により没した。わずか35年ほどの生涯であった。

◆戸田 氏共 《生没1854～1936》[在封1865～1871]
作品名:『鶴宿千年松』

氏彬の弟で、大垣藩十一代藩主(最後の藩主)。少年期に藩主となったが、父氏正や小原鉄心の支えで幕末の混乱期に勤王に藩論を統一し、上京し朝廷に忠誠を誓った。

版籍奉還後、東京へ遊学、続いて米国へ留学。以後伯爵となり、中央で大活躍し、外国公使や式部長官などを歴任した。しかし、大垣に対する熱意は変わることなく、特に教育にかかわる援助は大変なものであった。

◆戸田 鋭之助 《生没1857～1943》
作品名:『醉談天下事笑話古人書』・『春池深且廣』

初代藩主氏鉄の家老戸田治部左衛門以後代々、家老職を務めた家に生まれた大垣藩最後の家老。わずか6歳で家老となる。維新後、実業家を志し、第129国立銀行、大垣共立銀行を設立、初代頭取。旧大垣町初代町長。大垣商工会議所会頭などを歴任。

企業誘致を進め、近代大垣の礎を築いた。教育にも大きな情熱を傾けた。大垣の政財界の中心となり大きな貢献をした。

◆小原 鉄心 《生没1817～1872》
作品名:『醉中大書』(市指定重要文化財)

戸田氏正に重用され、藩財政の改革を主導し、成果をあげた。また、幕末の混乱期に兵制を洋式に切り替え、砲術を研究させた。これが、大垣藩が禁門の変や戊辰戦争などで活躍できた理由である。最後には藩論を勤王にまとめあげ、大垣が新政府で活躍できる素地を作った。

憂国の志士とも交わり、天下国家のあり方まで視野に入れて活躍した人物で、酒を嗜み、豪快かつ繊細な心情を書に表した。

◆野村 藤陰 《生没1827～1899》
作品名:『楠公之詩』

小原鉄心に信頼され、幕末から明治初期に大垣藩校や私塾などで教育に当たった学者。特に儒学に熱心で、四書五経についての学識は深く、中でも春秋左氏伝に精通していた。「左氏伝詳訳」や「藤陰詩文考」は著名な著書である。

藤陰は、「西濃で教えを受けなかった者はいない」と言われるほどの大教育者で、数千人もの子弟を育てた。その中から大垣を代表する学者や文人が多く生まれた。

◆大橋 翠石 《生没1865～1945》
作品名:『猛虎図六曲金屏風』(市指定重要文化財)

大垣の染物屋に生まれた。幼少から絵を習い、18歳で京都、20歳で東京に出た。東京では渡辺小華(渡辺崋山の子)に習った。彼は、写生の重要性を感じ、虎を熱心に描き続けた。その結果、明治33年パリ万国博覧会に出品した「猛虎図」は優等金牌を受賞した。その後、虎を描かせたら天下一と称され、宮内省・各官家・朝鮮李王朝・華族からの依頼が相次いだ。

展示した屏風は、旧大垣藩主十一代藩主戸田氏共の三女の結婚祝いに、戸田鋭之助が翠石に依頼して制作されたものである。

大垣市郷土館

〒503-0888 岐阜県大垣市丸の内2丁目4
TEL・FAX: 0584-75-1231
<http://www2.og-bunka.or.jp/bunka/manage/kyoudo.html>
主催:(公財)大垣市文化事業団(大垣市指定管理事業)



開館時間: 9時～17時(入場は16時30分まで)
休館日: 毎週火曜日、11/26(月)、12/26(水)
12/29(土)～1/3(木)、1/16(水)
入場料: 一般100円、高校生以下無料ほか
会場: 1階 郷土美術室